

令和8年度 学校経営方針

下川町立下川小学校

1 下川町小中一貫 学校教育目標

「未来につむぐ 自分らしさの創造」

「学校教育目標」
(令和8年制定)

考える子ども(知) 明るい子ども(徳) がんばる子ども(体)

「校訓」
(昭和48年制定)

コロナ禍を経て、学校の教育活動が再開され、子どもたちの交流も戻ってきた。教職員は学校のあるべき姿を改めて見つめ直し、一人一台端末を活用した授業改善や学校行事等の工夫を通して、子どもたちの自己肯定感・自己有用感・自己効力感を高める教育に努めてきた。

現在、社会は高齢化が進み、人口構造の変化が急速に進展している。こうした環境変化の中で、子どもたちには未来の社会を担う人材としての成長がこれまで以上に求められている。また、容易に答えを見出すことが難しいこれからの社会においても、自らのよさや可能性を見失わず、社会の一員として確かな存在であり続けられるよう育むことが学校教育の責任である。

このような考えを踏まえ、少子化を前向きに捉えながら、個の成長・確立を主軸に据え、小中一貫校として学校教育目標を「未来につむぐ 自分らしさの創造」と制定した。

(設定理由の詳細は別紙)

これからの子どもたちは、変化の激しい時代を生き抜く。人生100年時代の到来により、生涯にわたり主体的に学び続け、自らの人生を切り拓く力がこれまで以上に求められている。また、多様な価値観をもつ他者と当事者意識をもって対話し、問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」としての力も必要とされる。こうした未来を見据え、子どもたちが自分らしさを大切に、力強く生きていけるよう、学校教育の役割はますます重要になる。

これまででも、そしてこれからも、教職員は公教育の中核として重要な役割を担う。令和の日本型学校教育の実現を目指し、教職員には、学びの専門職として新たな教育を実践的に展開し、高度化・複雑化する教育課題に的確に対応していくことが強く求められている。子ども一人一人に寄り添い、丁寧な指導や支援を通しながら、安心して学び成長できる環境づくりを進めていきたい。

また、子どもたちを健やかに育むためには、学校だけでなく家庭や地域も重要な役割を果たす。家庭や地域と学校が密接に連携し、互いに支え合いながら子どもを見守る環境を整えることが不可欠である。こうした協働により、子どもたちは安心して学びに取り組み、自己肯定感や自己有用感等を高めることができる。地域とともに育てる体制を築き、子どもたちが社会に貢献し、自分らしく成長していく力を育んでいきたい。

今年度の重点目標を「学び合い、関わり合いを通して広がる笑顔と確かな成長！」とする。この目標には、子どもたちが互いに学び合い、関わり合う中で笑顔が広がり、確かな成長を実感できる学校生活を目指す思いが込められている。毎日の授業や学校行事などを通して、自己肯定感や自己有用感、自己効力感を育み、自分らしさを発揮し、安心して挑戦できる環境づくりに努め、子どもたちが「学び合う喜び」や「支え合う心」を深め、笑顔あふれる学校生活を送ることができるようにしたい。こうした日々の積み重ねが、一人一人の確かな成長につながり、未来への希望や夢を育む土台となるよう願っている。

経営の重点を「子どもを真ん中に チームで創る学校」とし、子どもたちが学ぶ喜びや成長を実感し、笑顔や自信を深め、安心して自分らしく成長できる「魅力ある学校」の推進を目指す。また、教職員が子ども一人一人に深い愛情をもって関わり、小さな変容や成長を丁寧に見取りながら、チームとしての役割と責任を果たし、やりがいと達成感を感じる「働きやすさ・働きがいのある学校」を推進する。さらに、保護者・地域と連携し、「信頼される学校」として子どもの変容を共有し、期待に応える学校経営を推進する。

施設分離型の小中一貫校として、学校教育目標「未来につむぐ 自分らしさの創造」を学校・家庭・地域で共有し、その実現に向けて創意工夫を凝らしながら活力あふれる教育活動を展開することで、子ども一人一人の輝きを引き出していきたい。

2 経営の基本方針

子どもを真ん中に チームで創る学校

(1) 経営の基本

- ① 人間尊重の精神を基盤に、子ども一人一人のよさや可能性を大切にしながら、「生きる力」の育成を目指した教育課程の編成・実施・評価・改善を進める。
- ② たゆまぬ研修と実践を通して教職員の専門的力量的向上を図り、子どもの変容や成長が実感できる価値ある教育実践を推進する。
- ③ 教育目標の実現に向け、相互の信頼に支えられた教職員の主体的な経営参画を促し、協働と共感を基盤とした組織的な学校運営を進める。
- ④ 施設分離型小中一貫校の特性を生かし、学校・家庭・地域が「目指す子どもの姿」を共有することで、義務教育9年間を見通した質の高い教育活動の推進し、児童の主体的な学びと確かな成長を育む。
- ⑤ 家庭や地域に「開かれた学校づくり」を推進し、積極的な情報発信と対話を通して信頼され、地域とともに歩む学校を目指す。

(2) 目指す学校像

- ① 子どもにとって、「魅力ある学校」
 - ・ 失敗を恐れず挑戦し、学ぶ喜びや達成感を味わいながら、笑顔があふれる学校
 - ・ 自分のよさや可能性に気づき、成功体験を積み重ねる中で、自信を深めていくことができる学校
 - ・ 自他の違いを認め合い、自分らしさを大切にしながら、安心して過ごすことができる学校
 - ・ 夢や目標をもち、見通しをもって取り組みながら、成長していくことができる学校
- ② 教職員にとって、「働きやすさ・働きがいのある学校」
 - ・ 子ども一人一人に深い愛情をもって関わり、小さな変容や成長を丁寧に見取り、喜びを実感することができる学校
 - ・ 教職員一人一人が自らの役割と専門性を発揮し、教育の成果を実感しながら、やりがいと達成感を感じられる学校
 - ・ 教職員相互の協働と共感の精神を大切に、チーム貢献力を発揮して重点目標や学校課題に主体的に挑戦する組織的な学校
 - ・ 教育活動を振り返り、成果と課題を共有しながら学び続け、工夫・改善を重ねていく学校
- ③ 保護者・地域にとって、「信頼される学校」
 - ・ 子ども一人一人の変容や成長を実感でき、安心して子どもを通わせることができる学校
 - ・ 学校教育に対する保護者や地域の思いや願いを的確に受け止め、期待に応えることができる学校
 - ・ コミュニティ・スクールを基盤とし、家庭・地域との連携を深め、地域とともに子どもを育てる学校
 - ・ 地域の人的、物的教育資源を生かした体験的な活動を充実させ、子どもが地域のよさや価値を実感できる学校
 - ・ あらゆる機会を通して、子どもの変容や教育活動の様子を積極的に発信し、学校の取組を分かりやすく伝える学校

(3) 目指す教職員像：「使命感・指導力・人間性のある教職員」

- ① 子ども一人一人のよさや可能性を信じ、未来を見据えた教育に使命感をもって取り組む教職員
- ② 確かな専門性と指導力を磨き続け、教育目標の実現に向けて、協働と共感の精神のもとチームとして機能し、子ども一人一人の学びと成長を支える教職員
- ③ 他者と積極的に関わり、一社会人としての良識と豊かな教養を身に付け、幅広い人間性を高めようとする教職員

(4) 目指す授業像：「誰一人取り残さないを意識した授業」

- ① 学習規律を大切に、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業
- ② 課題を自ら見出し、解決に向けて主体的に学び続ける力を育む授業
- ③ 個別最適な学び、協働的な学びを実現するため、ICTを効果的に活用する授業
- ④ 学校全体で系統的に指導し、根拠をもとに自分の考えを分かりやすく文章にし、説明できる力を育てる授業

令和8年度 下川小学校・下川中学校 グランドデザイン

【下川町小中一貫 学校教育目標】

『未来につむぐ 自分らしさの創造』
主体的に学ぶ生徒（知） 仲間と協働する生徒（徳） 粘り強く挑戦する生徒（体）



【下川中学校 本年度の重点目標】

生き生きと学び、活動する生徒の育成
～「自己有用感」に視点を当てて～

- ＜育成すべき資質・能力の重点＞
- ・主体性～課題に向き合い、自ら見通しを立てて行動する力
- ・協働性～相互の関係性を高め、協力して課題解決に向かう力
- ・挑戦心～課題克服に向けて、改善して向上を図る力

小中一貫
校基本
的な方針

9人 総
年の 合
間の 的
の物 な
長期 交
的流 の
的流 の
スを 時
パス 間
ンる を
でこ 柱
柱と 教
とと 育
でし 活
活慣 た
動れ 特
を親 色
突しあ
蹶んる
した 教
先環 育
を境 開
見で 活
通の の
し教 展
た育 開
貫活
の動
高の
い展 教
開 育
の推
進

カリキュラムマネジメントと組織マネジメントによる学校改善

主体的な学びに関して（知）	仲間との協働に関して（徳）	粘り強い挑戦に関して（体）
<p>【主な方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働場面の一層の充実を図りながら、主体的に学ぶ個の実現に導く授業改善 ・多岐にわたる課題に向かうための様々なスキルを身に付けさせ、取捨選択しながら解決へ導く学びの意図的な設定 ・限られた時間を有効に活用して創意工夫する取組を総合的な学習の時間、道徳、各教科へと拡大 	<p>【主な方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な学びの機会を確保するため、教科横断的な視点を活かした効果的な学びの機会の設定 ・発達段階をより意識した支援、指導を行い、9年間を見通してステップアップへとつなげる教育活動の展開 ・生徒指導の機能を活かした対話による支援、指導の全校体制での構築 	<p>【主な方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的、多角的な視点からアプローチできる組織的な指導の工夫 ・ありたい未来への意思をもって行動するAARサイクルの活用 ・総合的な学習の時間を柱とした学校と家庭、地域が一体となり失敗を恐れずに挑戦へと導く環境づくり

学校経営の重点

- ・地域と創り上げる開かれた学校づくり
- ・互いを尊重し、認め合う学年・学級経営
- ・突進や課題に応じた組織的、機動的対応ができる危機管理
- ・生徒を主語に歩みを進める学校運営
- ・互いの成長へと繋げる資質能力の向上を図る研修活動
- ・チーム学校に位置付いた学校事務
- ・変化する社会を切り拓く資質、能力を身に付ける教育課程経営
- ・安心して楽しく学べる教育環境の整備

【本校教育の指針】

- ・日本国憲法・教育基本法・学校教育法
- ・学校教育施行規則・学習指導要領
- ・北海道教育推進計画・上川庁フォーカス
- ・下川町総合教育大綱・下川町地域共生ビジョン
- ・下川町教育行政執行方針

＜子どもの実態＞

- ・明るく活潑、何事にも一生懸命取り組むことができる
- ・友だちと協力して取り組むことができる
- ・思考力、判断力、表現力に成長がある
- ・学力や体力の個人差が大きい
- ・成長への意欲・意欲、成長時期に遅延がある
- ・保護者と連携した親正しい生活習慣、学習習慣の確立が必須である

＜家庭・地域の実態＞

- ・保護者が学校教育およびPTA活動に協力している
- ・地域で子どもを預かる児童、子育て支援員がある

＜教職員の願い：子どもへつたたい力＞

- ・基礎的、基本的な知識及び技能
- ・思いやり
- ・問題解決力
- ・礼儀礼節
- ・コミュニケーション能力
- ・向上心
- ・主体性
- ・責任感
- ・思考力
- ・判断力
- ・表現力

＜保護者の願い：子どもへつたたい力＞

- ・基礎的、基本的な知識及び技能
- ・思考力
- ・判断力
- ・表現力
- ・思いやり
- ・礼儀礼節
- ・コミュニケーション能力
- ・チャレンジ精神

【下川小学校 校訓】

考える子ども（知） 明るい子ども（徳） がんばる子ども（体）

【経営の基本方針】

「子どもを真ん中に チームで創る学校」

【下川小学校 本年度の重点目標】

「学び合い、関わり合いを通して広がる笑顔と確かな成長！」

経営の重点

【目指す学校像】

○子どもにとって「能力ある学校」

- ・失敗を恐れず挑戦し、学ぶ喜びや達成感を得ながら、笑顔があふれる学校
- ・自分のよさや可能性に自信が、成功体験を積み重ねる中で、自分を誇りに思える学校
- ・自分の進みを進め合い、自分らしさを大切にしながら、安心して過ごすことができる学校
- ・夢や希望をもち、見通しをもって取り組むながら、成長していくことができる学校

○教職員にとって「働きやすさ・働きがいのある学校」

- ・子ども一人一人に深い関わりをもって関わり、小さな変化や成長を見取り、喜びを伝えることができる学校
- ・教職員一人一人が自分の役割と専門性を発揮し、教育の成果を実感しながら、やりがいと達成感を感じられる学校
- ・教職員相互の協働と共感の絆を大切に、チーム力を発揮して重点目標や学校課題に主体的に取り組む組織的な力を発揮し、教育活動を振り返り、成果と課題を共有しながら学び続け、工夫・改善を重ねていく学校

○保護者・地域にとって「信頼される学校」

- ・子ども一人一人の学習や成長が実感でき、安心して子どもを預けられる学校
- ・学校運営に対する保護者や地域の思いや願いを的確に受け止め、即時に応えることができる学校
- ・コミュニティ・スクールを基盤とし、家庭・地域の連携を深め、地域とともに子どもを育てる学校
- ・地域の人的、物的教育資源を活かした体験的な活動を充実させ、子どもが地域のよさや価値を実感できる学校
- ・あらゆる機会を通して、子どもの学習や教育活動の様子を積極的に発信し、学校の取組を分かりやすく伝える学校

- 1 学校教育目標・年度の重点の達成を目指す組織的、機動的な学校経営
- 2 全教職員の共通理解に基づく協働体制の確立
- 3 授業力を高める校内研修の充実とICT活用の推進
- 4 児童理解を中心に据えた学級経営の充実
- 5 学校と地域（こども園・下川商業高校を含む）の連携・協働の推進
- 6 小中一貫校として先を見通した質の高い教育活動の推進
- 7 安心安全で美しく潤いのある教育環境の創造
- 8 働きやすさ・働きがいのある「チーム学校と働き方改革の取組」
- 9 教職員が一体となった組織的な校務運営、危機管理体制の確立

「育てたい資質・能力」及び目指す姿

	考える子ども（知）	明るい子ども（徳）	がんばる子ども（体）
生きて働く 「知識・技能」の習得	生活や身近な事象に関する基礎的な知識を理解し、それを使って簡単な問いを立て、調べ、考え、自分の言葉で説明できる。	人との関わりや社会の基本的な仕組みを理解し、協力で活動できる力を身に付け、違いを認めながら共に生活できる。	心身の健康を守るための基本的な知識を理解し、健康的な生活習慣を身に付け、安全に気をつけて運動することができる。
未知の状況にも対応できる 「思考力・判断力・問題解決力」の育成	身近な課題を見つけ、情報を整理し、理由をもとに自分の考えを説明し、自分にあった方法を選択し簡単な方法で表現できる。	違いを認め、理由をもとに自分の考えを伝え、話し合いを通してよりよい生活や関係を考えることができる。	自分の健康や安全について課題を見つけ、適切に判断し、工夫して実践し、その結果を振り返りながら、生活に生かすことができる。
学びも人生や社会に生かす 「学びに向かう力・人間性等」の涵養	学びに前向きに取り組む、困難に粘り強く挑戦し、仲間と協力しながら、学級や学校をよりよくしようとする。	自分のよさを発揮しながら、他者を思いやり、協力で活動し、学級や学校をよりよくしようとする。	困難にも前向きに挑戦し、粘り強く取り組みながら、自分のよさを発揮し、心身の健康を大切にする。

＜家庭との連携＞

＜保護者＞

- ・参観日
- ・全体、学級懇談会
- ・PTA活動
- ・個人懇談
- ・授業支援
- ・学校行事
- ・地域行事への協力
- ・学校評価アンケート

【家庭教育に向けた連携】

☆子どもの基への傾聴、努力への称賞、安全への声かけ

- 1 挨拶や社会的ルールの徹底
- 2 望ましい生活習慣の形成（早寝・早起き・朝ごはん）
- 3 家庭学習や読書・ICT活用への環境設定及び習慣形成
- 4 テレビ・ゲームの時間設定及び点検
- 5 家庭での役割（お手伝い）の明確化

＜地域との連携＞

＜コミュニティ・スクール（学校運営協議会）＞

- ・学校経営方針の承認、学校運営及び教育活動への意見等
- ・学校評価を受けての意見等（地域学校協働本部との連携）

＜地域ボランティア（NPO 森の生活）＞

- ・交通安全見守り・環境整備・読み聞かせ（読書活動充実支援）
- ・体力テスト・雪山造成
- ・1日防災学校・ミン・ほんわか教室（総合・講師）
- ・つづじの芽とり
- ・森林学習、総合的な学習の時間（講師：森の生活）等

＜地域の教育資源＞

- ・社会見学、校外学習（工場、店舗、公共施設等）
- ・クラブ活動（地域人材講師）
- ・学びの広場（社会教育講師、交通安全教室、防犯教室、避難訓練、薬物乱用教室、情報モラル教室、消費者教育、租税教室、人権教室（関係機関、団体講師）
- ・地域行事、地域応募作品（いじめ標語、絵画等）への取組
- ・児童室との連携、社会教育との連携

＜校種間との連携＞

＜認定こども園＞

- ・アプローチとスタート画面での接続（指導者間連携）
- ・低学年生活科「おもちゃ広場」への招待（交流学習）
- ・一日入学（1年生との交流学習）
- ・授業参観

＜特別支援学校＞

- ・パートナーティーチャー要請訪問・指導助言
- ・校内研修

＜下川商業高校＞

- ・小高連携学習
- ・クラブ活動での連携

未来につむぐ自分らしさの創造

よりよい成長・より良い社会に向けた自分らしさの確立

誰かの
役に立てた
かも



地域清掃ボランティア



調理実習



クラブ活動

やれば
できる!

自己有用感

自己効力感

ありのままの
自分で
いいんだ!

自己肯定感

これが
今の自分!

キャリア教育

自分で
選んだから、
やる

はなちゃん
との触れ合い

自己理解

自己決定

なるほど、
そういう
見方もあるね

主体的・
対話的な学び

相互理解

森林環境教育

まちづくり提言

知らなかった
自分
見つけた

自己認識

自己発見

いまの自分、
こんなだ

まち探検
(社会科見学)